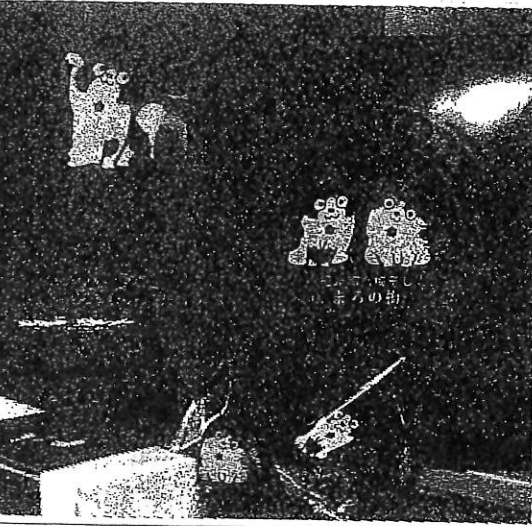


貴志川線を応援しよう 梅干しや菓子購入

県と和歌山市、紀の川市の職員有志200人がこのほど、新型コロナウイルス

で昨年より売り上げが減少した和歌山電鉄(株)貴志川線を応援しようと、同線の食品土産を購入した。同線は2005年、廃線の危機にあった路線を同社が運行を引き継ぐことで存続。当時から県、和歌山市、旧貴志川町(現・紀の川市)の3者が連携して存続支援をしてきた。今回の取り組みは毎月1度、定期的に関係者が集まる「貴志川線運営委員会」で意見交換をするなどして実現した。貴志川線は新型コロナウイルスの影響で利用者が増え、売店も減った。貴志川線への支援と売店休止によるフードロス削減しようと、有志が梅干しや「たま&ニタマ缶ドロップス」、「たまニタマせんべい」などを購入した。同線の担当者は「開業始まって以来



有志が購入した商品(和歌山電鉄提供)

の危機的状況の中で購入していただいた。心強くて勇気づけられた」と話した。

2020-06-16 <和歌山新報>

20-06-01 <ツカサコト Z774>

貴志川線の未来を、同会の活動を伝える

ニタマ駅長 在宅勤務中

緊急事態宣言の発令で在宅ワークが広がる中、和歌山電鉄貴志駅のニタマ駅長が4月16日から在宅勤務している。

感染対策として駅窓口や店舗の業務を縮小するのに伴うもので、広報担当者は「ニタマ駅長はツイッターで元気な姿を更新しています。手洗いや室内で運動している様子も見られます」と話している。

なお、29日から当面、一部列車の運転を取りやめている。5月中旬まで貴志駅内のたまショップを休業、たまカフェは午前10時〜午後4時の短縮営業、伊太折曾駅の窓口は休止している。



ニタマ駅長は5月中旬まで在宅勤務予定

2020-04-25 <和歌山新報>



収穫されたジャガイモ—紀の川市で

2020-06-09 毎日

ジャガイモ収穫し子ども食堂に提供
紀の川・市民団体
和歌山電鉄貴志川線の近くの畑で6日、市民団体「貴志川線の未来をつくる会」のメンバーら約70人がジャガイモを収穫した。乗客に配るほか、紀の川市と紀美野町の2カ所の子ども食堂に無償提供

同会などは毎年、約500人が集まる収穫イベントを実施しているが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止とした。代わりに、人数を絞り収穫したジャガイモを子ども食堂に提供することにした。この日は、両子ども食堂の職員も収穫に参加。紀の川市の子どもの食堂「こ・はうす きしがわ」の柳川敏彦会長(64)は「地域のさまざまな方が関わり育てたものでありがたい。しっかりと子どもたちに届けたい」と語った。同会の木村幹生代表(73)は「食べながら貴志川線を思い浮かべてほしい」と話した。9、10の両日午後5時から貴志川線と和歌山駅(和歌山市)のホームで、駅員や同会メンバーらが、乗客の利便に感謝してジャガイモを配るといふ。

【橋本陵汰】

シリーズ 和歌山電鉄貴志川線の魅力探険 174

平成七年まで貴志川線を走っていた緑の電車1201型は、1両だけ京都府与謝町の加悦鉄道SL広場に保存されています。その加悦SL広場が今年3月31日で閉園となりました。車両の整備担当者が1人しかおらず、技術継承が困難な上に車両の腐食が進んでいることが理由だそうです。



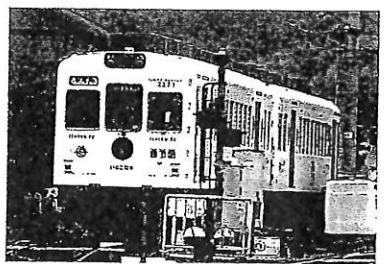
伊太折曾神社 欄宜 奥 重貴
☎073-478-0006

貴志川線で活躍した1201型も錆が浮きボロボロの状態になっていました。車両の引き取り手を探しているということですが、縁ある貴志川線沿線のどこかに保存できないのでしょうか。

2020-05-01 <ツカサコト Z774>

シリーズ 和歌山電鉄貴志川線の魅力探険 175

新型コロナウイルスの影響は貴志川線の運行にも深刻な影響を与えています。3月の利用は前年の半分、4月前半では3割という状況。インパウンドに頼る部分がまず減り、学校が休校、更に緊急事態宣言により利用者が激減しました。5月9日に貴志川線のダイヤが改正されました。平日13本、土休日5本の減便。少子高齢化による就労・就学人口の減少や働き方改革による人材確保が理由だそうです。



伊太折曾神社 欄宜 奥 重貴
☎073-478-0006

公共交通機関としてなくてはならない鉄道ですがその維持に大きな転機が訪れています。

和歌山電鉄のお宝放出

貴志駅「たま」写真や駅名板



売り場テントで鉄道グッズを吟味するファン（紀の川市で）

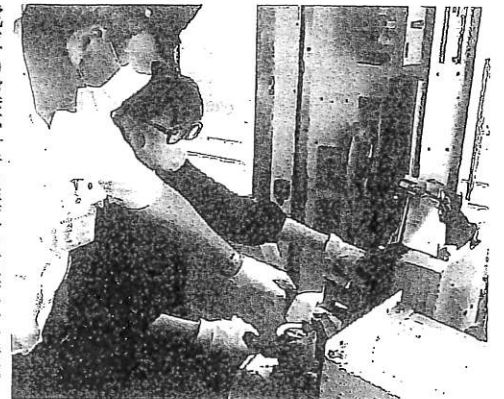
和歌山電鉄・貴志駅（紀の川市）で11日、同電鉄の古い駅名板や制服、ヘッドマークなどを販売する「よりますりお宝放出販売」イベントにあたることから、イベ

トが企画された。駅前には設けられた売り場では、駅名板や「たま」の写真パネルなどを販売。集まった鉄道ファンは、新型コロナウイルスの感染対策のため、1人ずつ売り場に入り、じっくりと品定めをしていた。同電鉄によると、新型コロナウイルスの感染拡大後、乗客数が大幅に落ち込んでいるという。駅名板などを購入した大阪市の高校3年、山本大幹さん（18）は「買った物は家に飾る。収益が電鉄の維持や猫駅長のご飯代になれば」と話していた。

2020-08-12<読売>

電車運転ワクワク

和歌山電鉄 抽選で体験催し



指導を受けながら電車の運転を体験する参加者（右、和歌山市で）

和歌山電鉄の電車の運転を体験できるイベントが22日、和歌山市の伊太祈曾駅であった。新型コロナウイルスの感染拡大に伴ってイベントの中止や延期が相次ぐ中、人が大勢集まって密集しない催しで鉄道ファンたちに楽しんでもらおうと、和歌山電鉄が企画した。約150人の応募から抽選で選ばれた男女4人が22、23日に分かれて体験。この日参加した和歌山高専3年の瓜生田彩月さん（18）は、和歌山電鉄の教育担当者から加速やブレーキの仕方を教わりながら、車庫から駅の約40分を時速35

キロ程度の速度で運転。少ない揺れで停車し「最高や」と声を掛けられると、笑顔を見せていた。瓜生田さんは小学生の頃から電車を運転するのが夢だったといい、「大きな車両を動かせることにワクワクした。貴重な体験ができ、幸せでした」と話していた。

2020-08-23<読売>

新型コロナ吹き飛ばせ

風ぐるま貴志駅にずらり



新型コロナウイルスを、線未来をつくる会吹き飛ばそうと、貴志川

夏の陽光を浴びてきらめく風ぐるま

駅に手作りの風ぐるまを飾り付けた。木村幹生代表は「コロナの影響でお客様さんが減っており、和歌山電鉄も経営が苦しい。窓を開けて換気している貴志川線に乗って貴志駅まで足を運び、風ぐるまの数の多さにびっくりしてもらえたら」と呼びかける。

貴志川線存続に向け、2004年に沿線住民らが立ち上げた同会。和歌山電鉄が経営を引き継い

だ06年以降も乗客増に向け、イベントを企画し応援してきた。

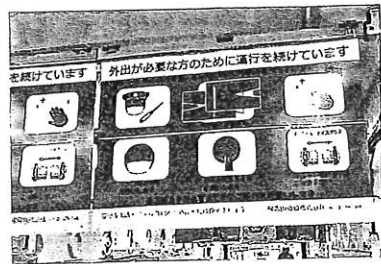
しかし、コロナの影響で春以降、毎年人気のタケノコ掘りやジャガイモ掘りなどを中止せざるを得ない状況に。寂しく感じていた会員から「何かみんなが驚くようなことをしよう」と提案があり、コロナ退散と貴志川線の永続を願って、風ぐる

2020-08-08<ニエス和歌山>

ま大作戦を企画した。ホーム向かいの壁際に風ぐるまがずらり。木村代表は「風が吹くと、風ぐるまに光が反射して感動するほどきれいです」。設置は9月13日①までの予定。貴志駅に問題用紙を置いており、風ぐるまの数を当てた人に抽選でたまグッズを贈る。詳細は和歌山電鉄（073・478・0110）。

シリーズ 和歌山電鉄貴志川線の魅力探検 176

5月にダイヤ改正を実施した貴志川線。伊太祈曾止の廃止など減便を行い、夕方以降和歌山駅発の列車は毎時7分と37分というパターンダイヤになりました。これは働き方改革の流れの中で、主として運転士の確保が困難になっている背景があります。貴志川線を末永く運行するための無理のない措置とご理解ください。新型コロナウイルスの影響で利用者も減っており早朝深夜の列車の運休もされていますが、公共交通機関として必要な運行が確保できるよう対策も施しています。是非ご利用ください。



伊太祈曾神社 裾宜 奥 重貴 ☎073-478-0006

2020-07-01<ツカイポイント 2774>